

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 29～令和 4 年度)

代表機関：大分大学（総括責任者：北野 正剛）

共同実施機関：大分工業高等専門学校、三和酒類株式会社、フンドーキン醤油株式会社、  
三井住友建設株式会社

## 取組の概要

今までの女性研究者支援事業により「リーダー格の女性研究者育成」を中期目標に明記した。この目標達成のため、本事業は、地域の中核的な発酵企業 2 社、大手ゼネコン企業、高専を共同実施機関として、女性研究者をリーダーとした産学連携研究を展開する。産学共にまだまだ男社会である大分で、大学、高専と企業との協働により女性研究者が主役となった地域創生を例証することで、男性の潜在意識の改革につなげ、女性の上位職比率と研究・技術者比率の増加、職域拡大を目指す。さらに「ひとの創生」活動をソフト面で支援し、男女ともに意識改革を好循環させリーダー育成につなげるために、先進的なダイバーシティ活動を推進している大手企業の地域工場（住友化学グループ、キャノングループ）が協力機関として参画し、仕事と私事の統合・両立、男性の意識改革の手法、女性リーダー塾の共同開講など「地域での産学連携型ダイバーシティ推進の仕組み」を確立する。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
S	s	a	s	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

## (2) 評価コメント

女性研究者・技術者がライフイベントを乗り越え活躍することが容易ではない地域社会の風土の中、代表機関の学長のリーダーシップの下、大分地域の特色や課題を把握し「サファイア人財育成プロジェクト」を構築し、女性研究者・技術者をリーダーとする産学連携共同研究を推進した。女性リーダーが活躍する好事例を示すことにより、地域社会の意識改革を確実に進め、代表機関はもとより地域の企業を含む 4 つの共同実施機関において、女性研究者・技術者の数が着実に増加したことは高く評価できる。また、代表機関の理工学部で初の女性教授、共同実施機関の企業で研究開発の女性リーダーが誕生するなど、上位職への女性の登用が進んだことは高く評価できる。今後は、「サファイア人財育成プロジェクト」の本格的な運用を進め、地域社会の意識変革を更に促す大きな動きに発展させていくことを期待する。

- ・ **目標達成度**：代表機関においては、女性研究者在籍比率は最終目標を上回り、教授の女性比率は 3 年度目の目標を超えた。また、共同実施機関において、女性研究者・技術者が着実に増加しており高く評価できる。さらに、女性研究者を研究リーダーとする産学連携共同研究の実施件数は 10 件に達し、最終目標を既に達成しており高く評価できる。
- ・ **取組**：県内 245 機関を対象とした大規模アンケート調査の分析結果から地域の特徴と課題を把

握し「サファイア人財育成プロジェクト」を構築することにより、地域における産学連携人財育成の枠組みを形成したことは評価できる。さらに、女性教員比率が特に低く、女性教授不在であった代表機関の理工学部において、全ての公募人事を、原則、女性限定公募とする取組を進めたことは評価できる。

- **取組の成果：**連携機関の女性研究リーダーが活躍する好事例を地域社会に示すことにより意識啓発を確実に進め、女性研究者・技術者の活躍の場を拡大するとともに、上位職への登用を進めたことは高く評価できる。代表機関の理工学部においては、女性教員比率を大幅に上昇させるとともに、学部初の女性教授を誕生させた。また、共同実施機関の企業においては、伝統的に男性が活躍してきた現場へ女性技術者の配置を進め活躍を支援したことは高く評価できる。
- **実施体制：**代表機関の学長のリーダーシップの下、代表機関と共同実施機関が緊密な連携体制を構築するとともに、「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」を創設したこと、また、連携機関に加え県内9企業が協力機関として参画し女性研究者・技術者の活躍促進を協働して図る体制を構築したことは高く評価できる。
- **今後の進め方：**補助期間終了後も、連携機関全てが一定の自主経費を確保し、これまでの取組を継続する計画であり評価できる。今後は、大分地域における「サファイア人財育成プロジェクト」の展開、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）とのより一層の連携を通じた、地域で活躍する女性人材の育成を期待する。